

## 「アシキリズン」——商品価値の禍

### 解説

ズソ科

危険度：★★★★★

生息数：——

生態

アシキリズンは両足に憑くズソ科の禍であり、するどい刃のような体組織を持つのが特徴である。右足と左足に憑く個体はそれぞれ別の個体であり、それぞれ逆の足には憑けないことが確認されている。しかし必ず対になるように憑くためにセットで考えてしまつて問題ない。とは言え左右の個体は体組織が鏡写しの形をとる別種のため、それぞれを区別する際には「サアシキリズン」「ウアシキリズン」というお互いの亜種として扱うこととしている。本項では両足セットとして生態を考察した。

アシキリズンに憑かれた人間は人間に対して「商品価値」の概念を当てはめる思考形態を持つようになる。ちなみに刃のような器官がどのような役割を持つているかはよく分かつていない。

「商品価値」とは非常に科学的で合理的な思考形態であり、人類の歴史の中でこの考え方が弱まった時代は存在しない。その内容については単純で、現在の経済能力と残りの寿命から計算される「これから稼ぐことのできる金額」の多さのことである。この「商品価値」という概念によつて人間は効率よく経済活動を行うという、行動の基礎思考能力を発達させてきたのである。これは経済の発展においては非常に優秀な考えであり、現在の発展の全ての土台と言ってもいいだろう。

「商品価値」は高めようと思えば際限なく高めることができる一方、特に幼少期からのこの行動は人間に対して重大な影響をもたらすものでもある。「商品価値」を高めている間は「禍への予防」が疎かになる。つまり「禍への予防」は疎かにしようと思えば際限なく疎かにできるということもある。このように「禍への予防」を疎かに「してしまつた」人間が、その人生の目的の一つが「不禍を目指すこと」であると考えることは難しいのである。既に疎かにしてしまつたものが大切なものだと考えようとする時、今までの人生の否定に繋がる恐怖があるからである（実際にはそれは今までの人生の否定ではなく、教訓を得たからこそその結論なのであるが）。このようにアシキリズンは人生の目的をあやふやにする危険性を持つ。そもそも「不禍」を目指すという目的を持たない人間は禍に非常に憑かれやすく、酷いことになりやすい。複数の禍に憑かれ、成長させ、複合的で多大なストレスに悩まされ、理由も分からず、そもそも人生の目的を持たないことに苦しめられ続けるのである。

### 対処法

アシキリズンへの対処法は分かつていない。更に現在推測されているのはこの禍と「シラスカミフツ」との関係である。アシキリズンがつけた傷は物理的な傷ではないので身体に影響はないが、その傷にシラスカミフツが湧いている例が数例報告されているのである。本来脳に憑くはずのシラスカミフツがなぜ足に憑いているのか、どのようにしてエネルギーを摂取しているのかなどはまだ分かつていない。しかしそれぞれの生態にも関連性が認められ、数例が報告されている以上無意味な偶然とは考え難い。これ以降も詳しく調査していく予定である。

